

いのち
生命の水うるおす未来

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2024年春

157



特集 ラオスの中学校に希望の寮

● 主な目次 ●

「巻頭言」発展に合わせてカンボジア支援 02
 特集：ラオスの中学校に希望の寮 04～06
 「海外活動ア・ラ・カルト」 07～09
 ごみを減らそう。活用しよう／キッチンカーで栄養専門家育成／ネパールの地震被災地に支援品／フィリピンで日本語学ぶ手助け
 「井戸ができた村」 10～13
 第3回水写真コンテスト入賞作品 14・15
 マレーシアで笑顔もらった 16・17
 イベントカレンダー2024年春 18・19
 新入会員紹介・領収報告 20・21
 「JAFSプラザ」=国内の活動 22～26
 大阪マラソン今年も走りました／能登半島地震被災者にカレーうどん炊き出し／外国ルーツの子と仲間の居場所カラフルキッズ／ウクライナ侵攻2年 平和祈り光の文字／「共に生きる世界」をめざして Waku Waku／アジアの歌と踊りで旅気分／アジアの物品売り市民との交流復活／田畑耕し緑とふれあい14年／鍋料理も満喫 新雪の金剛山 他
 「環境コラム」 27

アジアネット

JAFS NEWS & REPORTS 157
 2024年春



アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協力NGOです。1972年に大阪の若者により結成された国際奉仕グループ「エポス・クラブ」が発展し、1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2023年3月現在、井戸建設（累計2211基）や植林（累計258万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号です。2012年から、内閣府の認定を受けた公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、70の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。



本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

私がJAFSの活動に関わって約10年、イオングループ労働組合連合会（以下イオン労連）の組織として約20年になります。2004年、JAFSの全面的なご支援によって「カンボジアに井戸を寄贈する（贈水の輪）活動」をイオン労連の社会貢献活動としてスタートしたことが始まりでした。

発展に合わせてカンボジア支援



永島 智子
 アジア協会アジア友の会 理事

この20年、私たちは先輩方の思いを継承し、カンボジアが不幸な歴史を乗り越えて国として成長発展していくこと、カンボジアの人々の暮らしがよりよくなることを願い、活動を推進してきました。全ての加盟組合は様々な組合活動の折に「贈水の輪」活動として募金を行い、労連は募金を集約する「贈水の輪」基金を設立し、JAFS及びKAFSのご協力のもと、カンボジアに井戸を寄贈する活動を続けてきました。

04年当時のカンボジアは、長年の内戦の影響で多くの国民が酷い貧困状態にあり、生活インフラの整備やそれに対する十分な支援がないタケオ州の農村部では、毎日の水くみは女性や子どもたちの仕事で、片道十数kmの道のりを1日に何度も往復する厳しい環境下にあり、水くみに追われ、教育を受けることや仕事をすることもままならない状況でした。

井戸の寄贈に際しては、加盟組合から手を挙げた役員を現地に派遣し、現地の人々と一緒に井戸を掘り、子どもたちとふれ合い、「モノを援助する」ことではなく「自立」のための「手助け」を目的とした「カンボジアワーキングキャンプ」として活動をしてきました。04年から計54回、のべ1163人が参加、井戸の寄贈数は計137基（23年9月時点）となりました。私自身も現地を訪れ、KAFSの皆さまと交流

し、井戸を掘るなど貴重な経験をさせていただきました。残念ながらコロナ下の数年は、カンボジアワーキングキャンプはできませんでしたが、昨年から復活しました。カンボジアの現状を見ると20年前とは隔世の感があります。首都プノンペンには想像を超える発展を遂げ、日々目覚ましく変化していく一方、タケオ州などの地方と都市の格差は拡大を続けています。今後のカンボジアでの貢献活動については、変化に対応して変えるべきことと変えてはいけないものを明確にし、カンボジア、アセアンそして世界の平和に貢献できる活動、それを通じて次代を担う人材の育成に取り組むことで私たちの役割をJAFSの皆様と共に果たしていければと考えます。今後ともよろしくお願いいたします。

プロフィール

ながしま・ともこ 1993年(株)ニチイ入社。2000～08年マイカルユニオン東日本エリア議長兼政策部長、中央書記長など歴任。11～20年イオンリテールワーカーズユニオン中央執行委員長、イオングループ労働組合連合会会長など歴任。20年UAゼンセン副会長兼流通部門部長兼イオングループ労働組合連合会会長。2020年JAFS入会、理事就任。

JAFS会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

- 一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。
 - 一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。
 - 一、地球の自然環境を大切に守ります。
 - 一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。
 - 一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。
- 以上



特集

できた! ラオスに 希望の寮

遠距離解消 雨季でも安心 中学生らの学びを支える

JAFSが2022年に呼びかけたクラウドファンディングに集まった資金で、ラオスの山村の中学校に建設していた新しい学生寮が、23年10月に完成しました。これまで遠い道のりを雨や風の日も通わなければならなかった生徒たちは「これで欠席や遅刻の心配をせずに、勉強に打ち込めます」と喜び、日本からの支援に感謝しています。24年2月9日に全校生徒が晴れ着姿で学生寮の前に集い、完成式典を催して祝いました。
(JAFSスタッフ 坂口優)

実ったクラウドファンディング

ラオスの首都ビエンチャンから鉄道で4時間、さらに山道を車で6時間、及ぶ移動でたどり着いた先は、同国最北部のボンサリー県ブンヌア郡。中国・ベトナムと国境を接した県で、20を超す少数民族が暮らしています。学生寮が建設されたナンフェエ中学校（前期中等教育にあたる学校・6〜9年生の4年制）は、同郡の街からさらに25km離れた所にあります。

民族衣装と踊りで歓迎

「サバイディー（こんにちは）」
民族衣装を着飾った生徒たち、そして学校の先生が、拍手をしながら私たちが2部屋に分かれています。部屋は男女別です。そこに生徒たちは並んで寝ています。マットレスを敷いて布団をかけて寝ている様子が伝わる寮の中、綺麗に畳まれた布団の下に、それぞれの教材が置かれていました。壁にはかばんやハンガーが吊るされ、生活感があふれていました。食事は別の校舎で取っています。

この地域では、生徒たちの家までが学校から遠く、中には約10kmも離れている生徒がいます。特に雨季は道路が冠水し、通学が困難になります。ですから、学生寮はとても大きな役割を担っているのです。学生寮ができたことで、子どもたちは安全に学校に行き、授業を受け続けることができますようになりました。

ちを出迎えてくれました。その様子から、生徒たちがたくさん準備をしてくれていたことが想像できました。生徒の多くは、アカと呼ばれる民族か、プノイと呼ばれる民族です。それぞれの民族衣装で、練習したであろう伝統の踊りを披露してくれました。私と目が合うと、踊りながらにこっとほほ笑み、温かく優しい雰囲気包まれていました。
同中学校には現在、周辺の7つの村から100人が通っています。遠くから来ている27人（女子7人、男子20人）が学生寮で共に暮らしています。平屋の寮1棟の面積は72㎡で、1棟



▲完成した学生寮に向かって、民族衣装を着て伝統のダンスを踊るプノイ族の生徒たち
▶完成した学生寮の外観
▼学生寮の室内。ござを敷いた床に布団が畳まれ、壁にかばんが掛かっていた
=いずれも2月9日、ラオス、ボンサリー県ブンヌア郡





この村も例外ではありません。日々ごみは膨れ上がり、初めは住民も気にしていなかったのですが、徐々に健康、環境や公衆への悪影響、そして農地の土壌環境や、希望がなくなって設置された水システムの水質の悪化が懸念されるようになってきました。対策の始めとして、地域の各所にごみ箱兼処理場を設置しました。おかげ

ごみは私たちの生活と密接していますが、ネパールではごみ対処がすべての地域でまだ発展途上にあります。私たちは2月7日、インドラワティ村10区で、ごみの廃棄と管理のためのプログラムを立ち上げました。写真。地域のごみ処理リーダーの男女計25人が参加し、この地域に揚水システムが完成した後の、もう一つの大きな課題の解決に向けて活動を始めました。ネパールの山間地では、運搬時に壊れやすい瓶や紙に代わってプラスチックやビニールの容器や包装材が増え、行政の処理対応がないまま、見えないところに捨てられています。

ごみを減らそう。活用しよう 立ち上がるネパールの村人たち

海外活動 ア・ラ・カルト



生徒たちがショベルやくわを持って、寮を建設する準備工事を手伝った=2023年3月14日



衛生的なトイレもできた

ルール守り生徒が掃除寮の隣には、水洗式の清潔なトイレも完成しました。生徒たちは、寮やトイレを長く綺麗に使い続けられるように、ルールを守り、自分たちで掃除を定期的に行っています。学生寮で生活する生徒たちは「寮ができて、お互いの学びを共有するようになった。宿題を助け合ったりできる」と言っていました。新しいトイレや、学校や寮での規則正しい生活が、彼らの学びと成長にしっかり生かされ

ているのを感じます。ブラウンミール校長が、次のように話してくれました。「学生寮が完成して、生徒は学校に時間通り（遅刻せずに）来るようになりました。これが一番大きな変化です。遠方で暮らす家庭ではこれまで、子どもたちを学校へ送るために、交通手段となるバイクを購入しなければなりませんでしたが、寮のおかげでその必要がなくなり、家計のお金を節約できるようになりました。学校だけでなく、それぞれの家庭にとっても、この寮はとても大きな存在です。日本のみなさま、温かいご支援をありがとうございます。ありがとうございました」

寮の建設は、元々あった学生寮が老朽化して子どもたちが学校生活を送ることが困難になったため、JAFSに要請されました。ラオスでは政府の教育予算が少なく、適切な校舎がない、教室や教員が不足しているなどの、さまざまな課題を抱えています。ナンフェン学校も、そんな学校の一つです。建設にあたっては、周辺の住民に協力をお願いし、生徒や教員も一緒に

なって建設に携わることを重要視しながら事業を進めました。自分たちで建てた建物は大切に使う、と自然と想ってもらえるからです。完成後の運営や維持管理は地方行政だけでなく、生徒たちの家庭や周辺の地域住民の協力によって賄われます。

親の理解を切に願って

ポンサリー県は、ラオスの他の県と比べると貧しい地域です。この学校に通う生徒の親たちの多くは、教育を受けていません。教育の大切さも十分に理解されていないとは言えません。学校に行くより出稼ぎで働いた方がいいと思っている家庭が、まだまだ多くあります。早期結婚の慣習があるため、8年生や9年生（13〜14歳）になると退学してしまう女子も多くなります。

このような状況でも、子どもたちが少しでも良い環境の下で教育を受け続けられることを、そして、学ぶ子どもたちの姿を見た親が教育の大切さを知ってくれることを願って、JAFSと現地提携団体は活動してきました。コロナの流行を経て、ようやく完成した学生寮です。生徒や教員、地域の人々によって長く大切に使われていくことを願っています。クラウドファンディングにご協力くださった皆さま、温かいご支援をありがとうございます。

で散乱ごみは減りましたが、燃やしてはいけないごみをごみ箱で燃やしてしまい、爆発などが起きかけました。今回のプログラムは、ごみの分別管理の方法と、それがなぜ必要であるかを、ごみ処理リーダーたちが学習し、日々の作業に生かすことをめざしました。ごみ問題に持続的に対処できる実践者を増やそうという狙いです。村のごみの発生をできるだけ抑え、有機廃棄物は堆肥化します。家畜を飼っている人たちは餌に使っています。が、すべてが有効に堆肥化されているのではないので、手で分別し堆肥化する方法を話し合いました。その後、現地を訪問すると、多くの村民がごみを正しく分別し始めていました。この地域は、農業が発展の要になります。有機農業を地域産業につな

JAFSがアジア各国で行っている支援活動と、国内外の提携団体やご協力くださったみなさんから寄せられた声などを紹介します

キッチンカーで栄養専門家育成

JAFSは2024年からネパールで、「キッチンカー活用による栄養学科大学院生徒育成と食生活改善活動事業」を始めました。国立トリブヴァン大学の栄養学科学者を農村に巡回させて栄養指導の専門家に育て、地域の子

げようとめざしている人たちがおり、ごみへの意識向上は人々の暮らしの向上につながるという理解が浸透しつつあるのでしょうか。学校でも子どもたちへ定期的に環境教育と活動プログラムをしています。学校を訪問すると子どもたちが「次、来る時に花の苗を持ってきてほしい」「前より掃除のときのごみが減ってきました」と話してくれました。このような小さな変化が、地域のクリーンな未来づくりへ直結します。私たちは、この活動をこれから、インドラワティ村の別の区でもしていく予定です。（JAFSネパールスタッフ レシナ・バジュラチャルヤ）※この活動の一部は、りそなアジアオセアニア財団の環境事業助成を受けて実施しています。

どもたちの低体重や栄養不良を解消することをめざしています。大学生30人、教授2人とJAFSスタッフでチームを組み、1月に2カ所でスタートしました。地域行政や保健機関、学校の責任者にも参加・協力を



と味に変化が出て、子どもが喜んで食べました。家でも作ってみます」と、レシピの要望がたくさんありました。今後2カ月に1度のペースで開きます。

当会では1991年に同国で栄養調査をした後、学校給食や栄養教育の改善活動をしてきました。しかし、農村に栄養士の資格を持つ専門家がおらず、現地主動型にもっていきませんでした。栄養学を学んだ人たちによる地域指導を継続できるようにすること、第一歩としていきます。

呼びかけています。

今回は、いつも食べているメニューに工夫してできる栄養強化レシピを紹介しました。児童の保護者の95%が集まってくれ、関心の高さに驚きました。「子どもの体格が小さいから、家で何ができるか新しいことを学びたい」「主材料をかぼちゃに変える

同時に、各地域に食生活改善推進員を育成し、栄養専門家と連携して地域に合った食生活改善プログラムをつくり、地域の人々の健康のために定着させていく予定です。そして、栄養の専門家が必要なことを明らかにし、いつかネパールに栄養士資格が生まれるきっかけにしようとスタートしました。

現在、日本の栄養士資格取得をめざ

している留学生たちの学びも、本事業とリンクしています。留学生のルビ・バッタライさんとレジマ・タパマガールさんは4月から京都栄養医療専門学校の栄養士過程に入學します。ビスマ

ネパールの地震被災地に支援品

子ども用寝袋・生理用品に感謝の声

ネパール南西部のジャジャルコットで2023年11月3日深夜に発生した地震。その直後からJAFSは、過酷な冬に備えるために生活物資支援に取り組みました。

3カ月半が経った2月末現在、まだ復興に程遠い状況にある被災者に向けて、株式会社モンベル様からテント10



梁、寝袋大人用10本、子ども用51本、ダウンジャケット大人用19着をご支援いただきました。加えて、現地から要請があった生理用ナプキン400個、手洗い用と洗濯用の石けん400個、洗剤200袋、バケツ150個、手おけ150個、マスク1万枚、消毒液200本、防寒用マット100枚を、JAFS会員の皆さまからご寄付いただいた冬季募金で購入しました。

私たちは、この支援物資を被災地カランガの村落自治体の人たちへに届けるため、24年2月24日、カトマンズから718km離れたジャジャルコットへ、陸路を移動しました。カトマンズからスルケットに飛行機で45分移動し、その後さらに車で片道9時間の移動でした。この季節、朝晩の平均気温は1度前後。日中は19度前後まで上が

子ども用寝袋の支援を受けて喜ぶ母親たち
2月26日、ネパール、ジャジャルコット

職の人、シングルマザー、主婦などさまざまでした。

みんな、日本などに働きに出て家族を助けたいと望んでいました。地元で安定した仕事はほとんどなく、公務員の求人年1人程度、教員の補充もめったにないそうです。州都ソルソゴン市でも安定した職を得るのは難しいとの話です。

町内カマチレスの教会が会衆席を借わせてくれました。皆で机と椅子を調達、シート状のホワイトボードを黒板に貼り、

にわか教室をつくりました。教科書は「みんなの日本語」という本をコピーして配りました。

授業は平日午前9時から3時間。しかし、時間通りに皆が集まらなかったり、計画停電が当日わかって臨時休講したり、スコールで声が聞き取れなかったり、日本では考えられない予想外のことの連続でした。

十分でない学習環境は、生徒が熱意でカバーしました。何とか予定通り150時間学習をこなし、100問試験と400字日本語作文の課題を終えて修了としました。最終日は生徒の家族らが多数出席し、修了式をしました。国歌斉唱、式辞、作文の日本語スピーチ、証書授与と進み、最後は日本の卒業式の定番曲「旅立ちの日に」を修了者が日本語で合唱しました。

私がそもそも、この計画を思い立つたきっかけは8年前。日本で働く外国人技能実習生の記事を新聞で読み、遠い日本で頑張る彼らの熱い気持ちと姿に打たれました。私は企業で働いていましたが、定年後は彼らをサポートしたいと考え、日本語教師の資格を取得する学校に通いました。その頃にJAFSを知り、入会しました。アジアの活動地を実際に訪れ、日本語を彼らの生活改善のために役立てる活動をしたいとの思いをさらに強くしました。

そんな時、フィリピンのAFSソルソゴン代表ジーナ・ヤップさんから、マトノック町で日本語を学びたい人がたくさんいると聞き、23年7月に現地を訪ねました。そして、地域の関連団体などを訪問し、みな積極的に協力してもらえることがなりました。

今後は彼らが日本で働く機会が得られるようボランティア活動する予定です。

(JAFS会員 山下泰之)

フィリピンで日本語学ぶ手助け



日本語を学んで日本で働きたいというフィリピン人に日本語を教える教室を2023年秋、同国ソルソゴン州マトノック町で、私が教師役になって開きました。写真。

「生徒」は20歳代前半から40歳代の11人。大学を卒業したが仕事がなく、路上の物販、家政婦、農作業や清掃などをして家計を助けている人、まだ無

りますが、ヒマラヤ山脈に近いことから、冷たい風を受け、体感温度はとて低く感じました。

地震によってほとんどの学校、医療施設、トイレが崩壊しました。仮設の施設がようやく整備されましたが、地殻変動で水源が消滅し、多くの人々にとって水へのアクセスは大変難しくなっています。これから夏を迎えると、腸チフスなどの感染症が流行することが心配されます。少しでも早い水の確保が必要です。

加えて、この地域の人々は農業を中心に生活をしていましたが、震災後は水がなくて十分な作物が育てられず、食料の貯えが減ってきています。

現地の人々からは、「遠い日本から、素晴らしい技術を備えた物資を支援してください、とても感謝しています。朝晩は冷え込むため、乳幼児用の暖かい寝袋は子どもたちの体調管理につながります。助かりました」「女性にとっては衛生面が厳しい環境で、サニタリーナプキンが不足しています。女性の体と心を守ることにつながります」との声が寄せられ、日本の皆さんへ感謝を伝えてくださいとのメッセージを預かりました。

ネパールで活動をしています私たちからも、ご支援くださった皆さまに改めて感謝申し上げます。

(JAFSネパール駐在員 谷津都萌子)

谷津都萌子

井戸の水で野菜や家畜を育てる

村人の約85%は小規模農業を営み、家畜を育てて生計を立てています。現金収入を得るのが難しい状況にあります。コロナ禍で家族の誰かが出稼ぎに出る機会も減り、厳しい生活が続いていました。コロナ禍では収入減だけでなく、村間の移動が制限され、遠くの井戸から水を得ていた村人は、水を得ることがさらに困難になりました。井戸ができてからは家の近くで安全な水を得られ、その水で野菜や家畜を育て、暮らすことができるようになりました。心から御礼申し上げます。



【寄贈者】石原 基義 様

タケオ州トリアン郡クババ地区プレウスレウ村
 受益者：7世帯34人
 井戸の形式：露天式（深さ15m）

【寄贈者】(株)国元商会 様

女性や子どもが水くみから解放

タケオ州トリアン郡クババ地区プレウスレウ村
 受益者：7世帯36人と周辺村人
 井戸の形式：露天式（深さ17m）



村には安全で十分な水が得られる井戸がなかったため、村人は約900m離れたお寺のため池まで、水をくみに行っていました。池には、洗濯や炊事の排水が流れ込み、人も動物も水浴びをするので、飲料として安全とはいえませんでした。この地域の唯一の水源のため、その水を使わざるを得ませんでした。井戸を寄贈いただいたことで、村の中で衛生的な水を使うことができるようになり、村人、特に毎日の水くみをしていた女性や子どもたちの生活が大きく改善されました。

不衛生なため池から安全な井戸水へ

井戸が完成するまでは、この村には安全で十分な量の水が得られる井戸がなく、不衛生なため池の水を使うしかありませんでした。井戸が寄贈されて安全な水を村の中で得られることができるようになり、村人みんなとても喜んでいました。飲料水の他にも炊事、洗濯、水浴び、家畜の飼育、野菜の植付けにも水が使えるようになり、生活環境が大きく改善されました。毎日、安全な水が使えるので、安心して水を飲み、感染症などを予防して暮らせるようになりました。



【寄贈者】松江 宏・照子 様

タケオ州トリアン郡クババ地区トラペアン・ノル村
 受益者：9世帯34人
 井戸の形式：露天式（深さ20m）

【寄贈者】(株)セゾン情報システムズ 様

衛生的な生活を送れます

タケオ州トリアン郡クババ地区ココ村
 受益者：8世帯30人と周辺村人
 井戸の形式：露天式（深さ21m）



貧しい村人たちは、食べていくので精一杯です。現金収入も少ない状況のため、安全な水が得られる井戸を村人自身で建設することができずいました。そこで現地提携団体KAFSが村に入り、村人たちと相談しながら、現在の場所に井戸を設置することになりました。コロナ禍で収入が減り、乾季は水を得ることが本当に難しかったのですが、井戸によって家の近くで安全な水を得ることができるようになり、衛生的な生活を送れるようになりました。

村に井戸ができて生活改善

村に井戸が完成するまでは、村人は約1.8km離れたお寺のため池まで水くみに行っていました。足場の悪い細い道をバケツなどに入れた水を持って移動するというとても大変な作業に、1日の多くの時間を費やしていました。農民は限られた土地で水も十分得られないため、販売できるほど栽培規模を大きくすることはできず、自分たちで食べる分を作るのが精一杯でした。収入を得るのが難しい状況にありましたが、村で水が得られるようになり、生活が大きく改善されました。



【寄贈者】仁愛会 様

タケオ州トリアン郡クババ地区プレウスレウ村
 受益者：7世帯33人と周辺村人
 井戸の形式：露天式（深さ22m）

ご寄付には
 税の優遇措置が
 受けられます

いのち
生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真をお届けし、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基ご寄贈の場合に必要な費用■（2024年4月改定）

インド=60～80万円 フィリピン=45万円 カンボジア=28万円

スリランカ=40万円 バングラデシュ=25万円

ネパール=20万円（パイプライン=25～400万円）

※現地の建設・資材費上昇により改定。3年間のメンテナンス費、現地管理費を含む。

■寄付を合わせて1基寄贈の場合New■ 1,000円以上の任意額のご寄付で井戸建設にご協力いただけます。20万円以上のご寄付でネームプレートに記名いたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
 ☎06-6444-0587へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで
井戸ができた村

水くみ4～5時間が解消

日々の暮らしが劇的に変わりました。これまで私たちが何とか水を得ることができていた水場は、2kmほど離れていました。水を求めてたくさんの人が集まるため、長い行列に並ばなければならず、毎日4～5時間を水くみに費やす日々でした。時には水の取り過ぎや水場の占領が原因で、村人同士のけんかが起こることもありました。今回のご支援により、そのような問題が解消され、水くみが苦労な作業でなくなりました。ありがとうございます。



【寄贈者】沓野 泰之様

バグマティ州シンドウバルチョーク郡インドラワティ村
 ジョロンゲ集落・ガイリ集落 受益者：6世帯
 井戸の形式：水道パイプライン式

水を浄化する木々を植林しました

村の中に大きな水源がないため、農業も雨水に頼っています。生活用水には、水路か、山の湧き水を使っていました。水を得るには遠く離れた水路から運ばなければならず、衛生的ではありませんでした。井戸の完成を心から喜んでいます。（これからは）井戸の建設・管理なども（自分たちで）します。子どもたちが中心になって、水を保持し浄化する力のある木々を植林しました。井戸の水で、健康でいられることがとてもうれしいです。



【寄贈者】富永 信明様

ウバ州バドゥワッラ県カンダケティヤ地区タラクン
 プラ村 受益者：8世帯48人・寺32人・近隣村人25
 世帯110人 井戸の形式：露天式（深さ9m）

【寄贈者】エーゼル(株)様



年寄りが水くみから解放

バグマティ州シンドウバルチョーク郡インドラワティ村
 ジョロンゲ集落 受益者：6世帯
 井戸の形式：水道パイプライン式

長い間、水を得ることに大変苦勞してきました。日中、年寄りだけになることが多いのですが、その時に水がなくなると年寄りが自分でくみに行かなくてはなりません。重い水を運ぶことが大変な苦勞でした。そろそろこの水くみができなくなると思っていた矢先に、今回のご支援を得ることができました。家の近くに水場が設置され、大きな喜びの中にあります。私たちの長年の願いを実現するために経済的な支援をしてくださった日本の皆さまに、深く感謝しています。

子どもを留守番させずに済みます

ここは、日々の生活に必要な水を得るためだけに、家から数kmも離れた水場まで毎日2～3回歩くのが日常という、水の獲得に長年苦勞してきた地域です。特に連日大雨が続くモンスーン期は、どしゃぶりでも水くみに出かける必要がありました。小さい子がいる家庭では、時に子どもを家に残して水くみに行かなくてはならず、親も子も不安な時間を過ごしていました。ご支援で不安が取り払われて、水を自宅にくめるようになり、毎日笑顔で過ごすことができるようになりました。



【寄贈者】(株)ユニコーン様

バグマティ州シンドウバルチョーク郡インドラワティ村
 マランダタ集落 受益者：6世帯
 井戸の形式：水道パイプライン式

未来に希望を持てます

村には大きな水源や井戸がないため、村人は雨水をためた農業用水路から水を得ていました。汚染された水で飲料としては安全でないと言われていても、他に水を得る手段がなく、使わざるを得ませんでした。村の中で安全な水が得られるようになり、村人たちは皆、とても喜んでいました。長い道のりを歩いて水をくみに行くのは危険が伴い、大変な重労働でした。ファンシープランニングの皆様の温かいお気持ちに御礼申し上げます。未来に希望を持つことができました。

ウバ州バドゥワッラ県マヒヤンガナヤ地区ロハナ村
 受益者：15世帯42人と近隣村人20世帯70人
 井戸の形式：露天式（深さ16m）



【寄贈者】ファンシープランニング様

赤痢にかからない安全な水

水道により、日々の暮らしが大きく変わりました。ご支援ありがとうございました。これまで子どもが学校から帰ると水くみに行かせなければ、晩御飯の準備に間に合いませんでした。宿題が多いときやテスト期間中でも水くみを優先させなければならず、水場にネズミやカエルがいることもあり、モンスーン期には濁った不衛生な水で子どもやお年寄りが赤痢など病気にかかっていました。それが今では、短時間に安全できれいな水がくめるようになり、大喜びです。



【寄贈者】岡部産業(株)様

バグマティ州シンドウバルチョーク郡インドラワティ村
 ジョロンゲ集落 受益者：6世帯
 井戸の形式：水道パイプライン式

最優秀賞に小池基夫さん「水辺を駆ける」



最優秀賞 水辺を駆ける 小池基夫

第3回 JAFS「水」写真コンテスト

内外から応募56点

国連の世界水の日（3月22日）に合わせてJAFSは昨年引き続き、第3回「水」写真コンテストを開催しました。「水でつながる私とアジア」をテーマに、国内外から56点の応募がありました。審査員4名による1次審査、審査員3名による2次審査を経て、最優秀賞に子どもが水辺を走っている様子を撮った小池基夫さんの「水辺を駆ける」が選ばれたのははじめ、優秀賞2点、佳作3点、入賞4点の計10作品が決まりました。

入賞以上の10作品を、JAFSのホームページURL: <https://jafs.or.jp> で公開しています。また、3月27日から4月1日まで大阪市北区の阪急百貨店うめだ本店で開かれたNPOフェスティバルで展示しました。
（作品説明中の作者名は敬称を省略しました）



佳作 水たまりの中の平行ワールド 田中聡行

●入賞の4点●

- ・ペットボトルの滝登り = 有岡享
- ・Road of Water = 南翔太
- ・川面のロックンローラー = 川西泰弘
- ・Embracing the Divine: Honoring the Five Elements that Shape our Existence - Water, Earth, Fire, Air, and Space. = Bibesh Shrestha



▲優秀賞 稲作でつながる水 = 小澤 宏 ▼優秀賞 豊かな水の村 = 村上勝治



佳作 水を託す〜アマゾンの聖なる滝も世界を巡る〜 鈴木章弘



佳作 Where the rubbish lands = Towa Nishida

関西大学1回生の松村紗知さん、同4回生の井上陸玖さん、京都産業大学3回生の角田直樹さんが2月17〜21日、JAFSのスタディツアーに参加してマレーシアを訪ねました。迫害されミャンマーから逃れて来たロヒンギャ難民の住まいや小学校、また孤児院を訪れ、AFSベナンのフランチェスカ・ホンさんと一緒に支援活動や交流をしました。マレーシア科学大学では現地大学生と交流し、またクアラルンプールやペナンの街を歩き、多民族が共生する社会を体感しました。海外が初めての人の、国際協力や海外勤務の夢を持つ人と立場は違いますが、それぞれ多くを学びとってくれたようです。3人から届いたレポートをお届けします。(JAFSスタッフ 川本裕子)

心の強さを忘れぬ

ロヒンギャ難民

2月19日に、ベナン州キツムルタジャムにあるロヒンギャ難民の住居や小学校を訪ねた。ロヒンギャとは、ミャンマーで暮らすイスラム教徒の少数民族だ。仏教徒が多数を占める同国で、政府から迫害されて国民と認められず、バングラデシュやマレーシアに避難して難民となっている。(松村)

食料支援をした住居で聞いて印象的だったのは、フランチェスカさんから10世帯ごと2カ月に1回、計50世帯が支援を受けているということだ。各世帯が支援を受けられるのは10カ月に1度のみとなる。支援物資の量も限られ、難民たちはそれぞれ住居の畑で作物を栽培し、他の家族と物々交換して生活しているようだ。(角田)

マレーシアで 笑顔もらった



孤児院の子どもたちと日本人学生、AFSベナンのフランチェスカさん(左手前の白い服の人)と一緒に、「You, I, we build the family...」の歌を踊った。2月19日、マレーシア、ベナン州

支援物資をもらえるのは、所持するUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)難民登録カードの情報が適切である人。それを破り、物資をだまし取る

うとする人もいるようだ。しかし、一概に悪いとは言えない。明日を生きたためにやむなくしている人もいるという。我々が物資を提供した際には、お礼を伝えてくれた。(井上)

小学校では、子どもたちが歌や踊りを披露してくれたり、タナカと呼ばれるミャンマーの化粧を頬にしたり、私たちがドラえもんを歌ったりして交流した。楽しい雰囲気にもまれた一方で印象的だったのは、ある少女がこぼした「お金がないため、来年はこの学校に通えないかもしれない」という一言だ。マレーシア政府などから教育支援を受けられていない。(角田)

れた。手を振ったら振り返してくれ、腕を広げたら抱きついてくれた。彼らを少しでも笑顔にできて私はうれしかった。私たちが裕福な生活をしている反面、こんな境遇に置かれた方々も存在するという対比を感じ、彼らの心の強さを改めて実感した。(井上)

経済的な理由で学校に通い続けられない子の話を聞き、当たり前前に学校に通えることは素晴らしいことなのだと思えて実感した。私は何もできない自分に無力感を感じた。しかし、一緒に支援活動をした方が「彼らにとって、自分たちに目を向けて気にかけている人がいる、はるばる日本から会いに来てくれていると分かるだけでも救いになる」と話していて、今回の活動が少しでも意味のあるものになれば良いなど考えられるようになった。

このツアーに参加するまで、ロヒンギャ難民という人たちが存在することすら知らなかった。今回見たこと、知ったこと、感じたことを積極的に発信し、難民問題を解決するためにできることを見つけていきたい。(松村)

お返しはソーラン節 孤児たちに心通じた

19日の午後は、ベナン州にあるストリートチルドレンが暮らす孤児院を訪問した。施設内の礼拝場所で管理者の

方が「私たちは特定の神に対して祈りを捧げるのではなく、全人類に対して祈りを捧げています」と話をされたのが印象的だった。(角田)

孤児院には、ストリートチルドレンやシングルマザーの子、身体に障がいを持つている子が暮らしていた。インド系と中華系の26人だった。施設管理者の方は「すべての子どもたちが人種や宗教にかかわらず共に祈りを捧げて、平等に助けあって暮らせるようにしたい」と話していた。はじめは私たちが話しかけても、逃げてしまうような子が多かった。それだけ心の傷が深いのではないかと感じ、コミュニケーションをどう取るべきなのか、とても迷ってしまった。しかし、この日のために練習したインドの伝統的な踊りや歌を生き生きと披露してくれた。私たちが即席でソーラン節を披露し、一緒に踊った。少しづつ心が通じ合ったような感覚になった。(松村)

子どもたちはとても楽しそうに、歓迎してくれている心が大いに伝わってきた。私たちの歌や踊りにもとても喜んでいて、即席ではあったものの、披露して良かったと思った。その後、彼らから近づいてきてくれることが増え、抱っこや肩車をした。心を開いてくれている様子だった。(井上)

しかし、最後まで、表情がずっと暗い子も見られた。彼らが心に深い傷を負っていることがわかった。(角田)

私たちが帰るとき、子どもたちがみんな送り出してくれた。このような地でも帰りたいかと思つた私自身に驚いた。もつと彼らに楽しく生きる希望を与えたいと強く思つた。私の身を起こる辛いことなど、たいしたことではないと考えさせられた。貴重な経験だった。(井上)

人は会話だけではなく、共に体を動かす、声を重ね合わせるだけでも心を通わせることができるのだということに、この孤児院を訪れて実感した。孤児院の子どもたちが、私たちの訪問を喜んでくれた姿を見て、私は日本国内にある孤児院などの施設も積極的に訪ねてみようと思つた。(松村)

学生のすごい英語力 「私もがんばらねば」

2月20日にベナン州にある国立マレーシア科学大学(USM)を訪れた。現地の4年生2人と我々3人が、スライドを用いて自己紹介し、所属大学や住む地域、文化などを紹介し合った。USM学生のプレゼンテーションは、2人ともスライド作りや発表の構成などの質が高かった。年10回は英語でプレゼンをするそうだ。卒業間近だから、これまで40回はした計算になる。彼らは英語が母国語でないのに、高レベルの実用的な英語を話した。高校

生の時、社会人になる前に習得した方が有利と考え勉強したそうだ。学生のミーティングも英語で行い、英会話に慣れているとのことだった。(角田)

USMの学生は自己紹介も英語力もレベルがとても高く、尊敬することばかりだった。1人の学生は日本語も習得していた。彼らの学習意欲はとても高かった。英語は私たち日本人は小学3年生から、マレーシア人は6、7歳からと、少し早く学び始める影響はあるかもしれないが、同じように学校で英語を学んだにもかかわらず、会話では日本人は劣っていると痛感した。

1人の学生から、話せるようにならないといけないプレッシャーを感じて努力したと聞いて、日本の英語教育と、自分の学習に対する意欲は、劣っていると感じた。残りの学校生活を無駄にしないように学習にも努力を惜しまないでおこうと思つた。(松村)

帰国して井上くんが話してくれました。「一生日本で楽しめると思っていたが、初めて海外に行き、外に違う世界があり異なる考えの人がいると分かった。また将来はフードロス削減のための食品販売に携わる予定なので、食料支援にも関わりたくなった」。

ツアー後にフランチェスカさんは「この貴重な経験が学生の将来や社会貢献に生かされれば、私の努力は報われます」とメッセージをくれました。

JAFSチャリティイベントカレンダー

2024年春



月	日	地域	行事名	時間	実施場所	参加費	内 容
4月	6日(土)	平野区	JAFSなにわ南地区会主催 なにわウォーク「1200年連続と続く歴史と文化の環濠自治都市・平野郷巡り」	10:00～14:30(予定)	ウォークは10:00JR平野駅改札口集合。ウォーク後の昼食会場：大阪市平野区 アークショップノアノア(大阪メトロ谷町線長原駅より徒歩約8分)	2000円(昼食付・昼食なしの場合は1000円)	平野のまちは坂上一族の平安時代から現代まで受け継がれ環濠として発展してきました。連続と続く栄光の歴史を名ガイド沖本先生と共に歩きます。ウォーク後は、ノアノアカフェにて美味しいランチをいただきます。沖本先生と楽しいひと時を過ごします。 ●窓口：JAFSなにわ南 柿島 090-1021-6834
	9日(火)	西区	第411回JAFSぞうすいの会 マレーシア・スタディツアー報告	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	2月に実施したマレーシア・ペナンでのスタディツアーについて、スタッフが報告します。美味しいぞうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	9日(火)	西区	ワンコインセミナー 「ハンドトリートメント」	13:15～13:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：土本花す子 手先から肘までをマッサージします。不思議なことに身体も温まります。お互い練習台になって、ペアで練習しますので、お友達でご参加されてもOKです。実際に練習する方は「爪切り」してご参加ください。持ち物：ハンドクリーム・フェイスタオル ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	9日(火)	西区	ワンコインセミナー 「健康麻雀〔座学〕」	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：野池徹 4回完結。老若男女の初心者(初めて牌に触れる人)対象。椅子に座って指が動くだけでOK。ゲーム(スポーツ)のルールをヨチヨチ学び、スリルとサスペンスを楽しみましょう!!驚くほど人生が豊かになります。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	9日(火)	西区	ワンコインセミナー 「けん玉教室」	14:45～15:25	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：横山享利 子どもの頃に遊んだけん玉ですが、大人になっても上手にできるように先生が丁寧に教えてくださいます。子どもに戻って頑張りましょう!! ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	9日(火)	西区	ワンコインセミナー 「オルゴール&シンキングボール」	15:30～16:10	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：中山竜士 あなたの体で素敵な音楽を奏でることが出来ます。オルゴール演奏でストレス解消!! スイスオルゴール演奏曲「カノン」を聴きシンキングボールを頭にかぶせる体験でストレス解消。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	9日(火)	西区	ワンコインセミナー 「バルーンアート講習会」	16:15～16:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：谷阪洋子 風船で犬、キリン、キティちゃん、トトロ、くまモンなどのキャラクターや季節のグッズを作ります。とっても可愛い作品ばかりです。一緒に作りましょう!! ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	9日(火)	西区	ワンコインセミナー 「韓国語&韓国舞踊」	17:00～17:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：南廷秀(ナムジンウ) 韓国伝統舞踊を踊ろう!! 韓国舞踊家の指導でみんなと踊ってみませんか!! 韓国語を学んでみませんか!! 韓国人講師の指導で韓国語文法や会話を学びます。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	10日(水)	生駒市	アイビー歌声サロン in生駒	12:30～14:00	生駒市だけまるホール 多目的室 近鉄奈良線、大阪メトロ中央線生駒駅よりすぐ。	700円	腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。 ●窓口：有山加代子 090-8377-5151
	13日(土)	西区	新入会員ウェルカムパーティ	10:30～13:30	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	1000円	年に2回恒例の新入会員ウェルカムパーティ。最近2年以内に入会いただいた新入会員の歓迎パーティ。オリエンテーションと併せて、各地区の世話人の皆様との交流会も有り、お互いの親睦を深めます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
13日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学 第8回 アジア全般「アジアの少子高齢化と移住労働者」	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円 会員 2000円	京都大学大学院で移民研究・高齢者福祉を専門に研究されている安里准教授より、急激に進行するアジアの少子高齢化と共に大きな転換期を迎えているアジアの家族主義についても及する。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834	
16日(火)	天王寺区	法人賛助会主催 日本銀行理事大阪支店長 中島 健至氏の卓話と懇親会「最近の金融経済情勢と今後の展望」	18:30～20:30	ホテルアウィーナ大阪・レストラン近鉄上本町駅より徒歩5分または大阪メトロ谷町九丁目駅より徒歩7分	5000円(懇親会費含む)	着任満1年となる日本銀行理事大阪支店長 中島 健至氏が、日経株価最高値、円安傾向の経済状況を踏まえ、日銀の金融政策運営や依然総見が見えぬウクライナや中東情勢など、激変する世界情勢の中での金融経済の現状や今後についてご講話いただき共に考えます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834	
18日(木)	未定	第27回JAFS道楽の会ウォーキング	未定	未定	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。 ●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085	
19日(金)	生駒市	アイビー歌声サロン in生駒	15:00～16:30	生駒市STAはばたきハーサル室(生駒市上町1543)近鉄けいはんな線白庭台or学研北生駒駅から徒歩10分	700円	腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。 ●窓口：有山加代子 090-8377-5151	
5月	5日(日)	宝塚市	中山寺子どもフェスティバル【ボランティア大募集】	9:30～15:30	中山寺(宝塚市中山寺2-11-1)阪急中山観音駅北出口より徒歩3分	無料	安産祈願・子授祈願で有名な宝塚市の中山寺で開催のこどもフェスティバルに今年も出店します。楽しいヨーヨーやバルーン遊びをはじめ、美味しいうどん、タコせん、綿菓子などの他、水カメ運びなどのアジア体験を楽しみながらアジアのこども支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	11日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学 第9回 東南アジア・タイ「岐路に立つ東南アジアの政治-民主主義の行方」	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般 2400円 会員 2000円	東南アジアには現在11ヶ国が存在するが、著しい経済発展の一方で政治については民主主義の定着が遅れている。特にタイの政治が専門の筑波大学の外山准教授よりタイを中心に東南アジア諸国の民主主義の状況についてお話いただけます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	14日(火)	西区	第412回JAFSぞうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	最近のアジアの現況について、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。美味しいぞうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	14日(火)	西区	ワンコインセミナー 「ハンドトリートメント」	13:15～13:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。
	14日(火)	西区	ワンコインセミナー 「健康麻雀〔座学〕」	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。
	14日(火)	西区	ワンコインセミナー 「けん玉教室」	14:45～15:25	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。
	14日(火)	西区	ワンコインセミナー 「オルゴール&シンキングボール」	15:30～16:10	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。

14日(火)	西区	ワンコインセミナー 「バルーンアート講習会」	16:15～16:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。	
14日(火)	西区	ワンコインセミナー 「韓国語&韓国舞踊」	17:00～17:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。	
16日(木)	未定	第28回JAFS道楽の会ウォーキング	未定	未定	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。 ●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085	
19日(日)	中央区	なにわ西チャリティウォーク 「江戸時代最も愛されし、浪花三橋を巡り、中の島周辺の歴史とバラ園を楽しむ」	10:00～13:00	大阪メトロ谷町線・京阪電車「天満橋」 京阪モール1階スターバックス前集合	1,000円(一部をイベント教育支援に充当) 定員 20名	案内：大阪歴史案内人 沖本然生氏 江戸時代、重要な橋として大阪には珍しい公儀橋。また多くの橋のなかでも人々に最も愛されてきた、天満橋、天神橋、難波橋。それ故に周辺には歴史と文化が宿る。今も三橋周辺に残る歴史を感じながら現在愛されし中之島のバラを鑑賞する。 ●窓口：伊藤 勝 090-2410-5529	
6月	1日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学 第10回 マレーシア・シンガポール「『からゆきさん』ゆかりの地、シンガポールとマレーシア・ペナンを訪ねる」	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般 2400円 会員 2000円	立命館大学文学部名誉教授の藤巻正己氏が、かつて帝国日本時代の明治、大正期にシンガポールやマレーシアのペナンへ身売りされた「からゆきさん」の過酷な歴史を振り返り、異国の地で生き抜いた彼女たちの人生に思いを馳せます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	8日(土)	中央区	第12回定期社員総会	14:00～15:45	無料	年に一度の定期社員総会を開催します。参加対象は議決権のあるJAFS社員会員ですが、オブザーバーとして維持会員・賛助会員も参加いただけます。	
	8日(土)	中央区	海外プロジェクト報告会&第12回定期社員総会・懇親会	16:00～19:00	同上	3500円(予定)	最近の海外プロジェクトの報告と定期社員総会後の懇親会を同会場にて開催します。皆様の交流・親睦の機会としてどなたでもご参加いただけますのでぜひお越しください。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	11日(火)	西区	第413回JAFSぞうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	最近のアジアの現況について、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。美味しいぞうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	11日(火)	西区	ワンコインセミナー 「ハンドトリートメント」	13:15～13:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。
	11日(火)	西区	ワンコインセミナー 「健康麻雀〔座学〕」	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。
	11日(火)	西区	ワンコインセミナー 「けん玉教室」	14:45～15:25	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。
	11日(火)	西区	ワンコインセミナー 「オルゴール&シンキングボール」	15:30～16:10	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。
	11日(火)	西区	ワンコインセミナー 「バルーンアート講習会」	16:15～16:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。
	11日(火)	西区	ワンコインセミナー 「韓国語&韓国舞踊」	17:00～17:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	内容は4月9日(火)の同イベント欄をご覧ください。
15日(土)～16日(日)	京都府南丹市	美山 自然塾 「ホテルのタペ」	1泊2日	京都府南丹市美山 美山楽舎	大人6000円 子供3000円 KANTA会員 半額	美山の食材を使って水車小屋でひいたお米をかまどで炊いてみんなで食べます。夜は川辺で蛍鑑賞をします。 ●窓口：KANTA(関西ナショナルトラスト協会) 鳥居京子 電話：090-5663-6123	
16日(日)	高槻市	JAFS高槻主催 誰でも出演大歓迎 ピアノ音楽会	13:30～16:30	クロスバル高槻(高槻市立総合市民交流センター)8階イベントホール JR高槻駅南口より徒歩2分	演奏参加費 5分500円 10分1000円	音楽好きな会員・一般市民対象に誰でも参加できるピアノ演奏会を開催します。*入場料会員500円未会員600円 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587	
20日(木)	未定	第29回JAFS道楽の会ウォーキング	未定	未定	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。 ●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085	

●緑とふれあう農園の作業日

<場所> JR星田駅より徒歩8分 4/13(土)、4/27(土)、5/11(土)、5/25(土) 午前8時～11時、6/15(土)、6/29(土)、7/13(土)、7/27(土)、8/10(土)、8/24(土) 午前7時～10時
<内容> 季節の野菜を植えて育てます。緑を育てる楽しさを共に分かち合ひましょう! はじめて参加される方は事前連絡ください。
窓口:事務局 熱田 06-6444-0587 ブログをご覧ください。blog.goo.ne.jp/midori-hureai

♥「もったいない」のきもちを社会貢献へ♥

JAFSでは以下のものを集めています。ぜひ、ご協力をよろしく願いいたします。

○書き損じハガキ、切手(未使用・記念切手可)、外貨コイン：事務局の通信や、JAFSの活動に使わせていただきます。

○服、アクセサリ、カバン等：買ったけど数回しか使っていない。でも捨てられないものありませんか。

お問い合わせ 06-6444-0587 JAFS事務局

断捨離 × 国際協力 もったいないを力に!

寄付いただいた物品は、チャリティーショップ KANAU で販売。その売上がアジア協会の支援活動に役立てられます。

洋服(春・夏服) ※冬服は9月以降にお願いします 鞆 本/CD/DVD 服飾品 アクセサリー ショール等

問合せ・受付先 ▼ 火曜定休 10:00～18:00 JR 寺田町駅より徒歩10分

KANAU 〒544-0025 大阪市生野区生野東 2-2-15 夢かなうチャリティーショップ ☎ 090-4161-0236(青木)

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。(敬称略・50音順)

2023年12月1日～2024年2月29日

- 社員会員
梶山孝清/増田隆史
- 賛助会員
グエン・ティ・アン・ダオ/辰登志男

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。(敬称略・50音順)

2023年12月1日～2024年2月29日
なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

- 社員会費
明見勝好/明見睦子/伊藤誠/岡田一
岡田光浩/梶山孝清/木村将明/斎藤公代/三本木一夫/高岸泰子/端無勝/増田隆史/藪内資子/湯川剛
- 維持会費
家本英里/石井琢也/石澤千恵子/石田美咲/伊藤ヒサ/伊藤勝/稲垣三千穂/井上賢/大野典子/岡本修/尾上禮子/岳山修/籠島慎二/片岡伸介/印牧武人/唐木裕司/河上晃浩/川添稔/北田勝/楠井喜代治/江夏博美/河野直子/古賀暢子/後藤俊明/坂本喜代美/澤田靖子/正法地由紀子/白神博子/末永雅典/杉野佳代/杉本牧子/須藤敏浩/瀬戸川弘子/袖山良一/高山恵理子/谷口ちえ子/谷山好恵/田村康子/手嶋寛/寺西哲志/外山裕之/中嶋賢二/中嶋多賀子/中島綾/永田文/中西豊次/永濱悟/西岡万里/仁科浩/島山ひろみ/島山房子/林和子/平田實/福西礼子/藤木茂/藤本和富/古川武/本庄紀子/前川匠/眞砂哲志/松田勝也/松原洋子/妙代和也/村上泰代/山路英子/山田明

- 賛助会員
子/横山昌三/吉田準・聖子/米田典子/和田征子
- 賛助会費
赤石尚子/浅野敏弘/浅野直人/有山英里/石井奈那/井上松月/今枝ゆかり/入江保夫/打越道夫/榎本忠宣/太田愛子/大野篤一郎/岡村房子/小野英俊/貝柄徹/垣鏑祐介/勝原慶子/加藤昌彦/亀谷真佐美/川口勝三/川崎雅子/川崎隆二/川端香織/河村徳次/川村幸正/河本朋子/北川健治/木村征代/木村有香/木元典子/グエン・ティ・アン・ダオ/小出幸代/小島学/小谷正登/小林照子/小林陽子/佐伯裕子/笹原由美子/澤智子/謝秀連/設楽宏幸/島田真知子/下久保恵子/白山礼子/聖母奉獻修道会/関川温子/高橋幹雄/田口博園/竹内泰子/辰登志男/田中愛子/田中佐苗/田中敏弥/田中通成/谷口倫子/田宮節子/ダン・テイ・ゴック/日野西光尊/塚本善弘/月城文子/辻昌子/出口豊子/寺浦不二子/友成陽子/鳥井章司/中岡浩司/中島節子/中西貴子/中西美代子/中西佑介/永野英子/中

- 村恵美子/仁井恭子/西田京子/西田倫子/新田留美子/八田磨/原のり子/春木真巳/東野榮子/日高雪子/平岡由紀子/福岡誠之/藤木茂/藤田智映子/藤原克彦/堀米弘子/牧和矢/松本和子/マツラ明日菜/マツラ加里菜/眞鍋ミサ子/丸山育子/三建一/溝口清子/森佳緒里/森垣智恵子/矢賀繁之/八木澄子/柳本京子/山崎兄・恒子/吉野甚平/霊松寺
- 法人会費
仁愛会/㈱OSGコーポレーション
- 里親会費
赤石尚子/明見勝好/幾谷真規子/石原基義/岩田史子/梅本仁美/大畑直之/大林昌子/大平英明・さゆり:こはる:ほのか/小笠原喜照/岡田麻理/海津加代子/印牧武人/川端香織/北畑哲治/木村千鶴/木村征代/㈱グロアップ/古賀旭/小谷正登/小林剛/野裕章/佐伯裕子/佐藤雅子/佐藤雅美/左野菜穂子/謝秀連/島村和佳奈/下村蓮実/新保崇浩/杉野佳代/住友藍/関口淳/瀬田敦子チャリテイーコンサート/田中愛子/田中和子/谷澤大介/谷野麻実/谷村信彦/チャリティショップKANAU/筒井みゆき/坪内廣次/寺西哲志/戸田恭子/外山裕之/中谷誠/中野芳子/西浦暢子/西澤純/西山美菜子・千晶・敦記/根上真依/島山ひろみ/八田磨/林茂雄/ピグマリオン学院奈良教室/姫野佐智子/古川武/の場義恵/眞鍋ミサ子/武藤英利矢/森山涼子/八尾眞司/矢野佳代/和田義次/渡部高明/渡辺治彦/渡部司

●一般寄付

- 青木洋介/JAFS事務局/熱田親恵/枝川豊/大久保勝則:洋子/兼松利木雄/蛭名健仁/岸本和彦/Kinoshita Jun/菜村壽子/斎藤公代
- 井戸建設積立
地球愛祭り東京実行委員会/幾谷昌彦/角英樹/川本順子
- 井戸建設積立
一瀬田起子/㈱H2Oサンタ/仁愛会/JAFSぞうすいの会/西宮友の会/ゆりかご幼稚園
- 井戸建設指定
○インド
○カンボジア
㈱グローアップ米田豊・たづ
○スリランカ
㈱大松/㈱グローアップ米田豊・たづ
- ネパール
太田宣子/OSGコーポレーション青樹会/㈱クレコスにここクラブ
- アジア・ネットワーク奨学会費
上野孝一/村上公彦/吉田俊明
- アジア・フレンドシップ募金寄付
JAFS歩く会/川上徹/玉田元美
- アジア・子ども支援寄付
アジアンチャリティフェスティバル実行委員会/松尾慶治

- インド・HIV子どもと家族支援会費
戸田恭子/苗村登美子
- インド・バタトラ小学校支援
JAFS 関東
- スリランカ指定寄付
岡本朋子
- スリランカ・サルボダヤ支援会費
手嶋寛
- ネパール・ピトゥリ基金寄付
熱田典子/奥田和弘/島崎亨枝/マツラジャンマン
- ネパール・ピトゥリ支援会費
大谷英一/大谷臣子/小川幸子/倉光和之/小松朱美/前田美津代/前田豊/宮本博幸
- ネパール栄養改善教育支援
東代清隆
- ネパール・バイオガス寄付
設楽宏幸
- 地球幸せ募金
小代利子
- 土と水と緑の学校支援
吉田幸子
- ネパール貧困対策
東代清隆
- ラオス学校建設支援
高瀬稔彦
- フィリピン・ストリートチルドレン支援
渡邊様美
- フレンドシップ国際基金
熊田一隆/時事懇話会/芝野照久/杉

- 大阪マラソン寄付(水支援)
熱田親憲/熱田典子/天野紀/天野澄子/天野由紀代/新石正治/荒川雄毅/石原基義/伊藤健/岩井甚哉/上野孝一/大内美菜子/OSGコーポレーション/青樹会/大塩節子/大西恵子/岡田光浩/岡野智子/小野紫苑/株式会社カステロ/亀田重雄/㈱クレコスにここクラブ/近藤充儀/斎藤公代/櫻井紘哉/佐野光彦/三本松三津江/㈱スタイス/ダン・テイ・ゴック/長克宣/戸田恭子/西亀真/布川由美子/橋本隆/端無勝/原のり子/肥田勇也/福岡名津子/福留ゆか/藤原正昭/船越果那/法花敏郎/本多隆久/マツラジャンマン/三木信子/JAFS北河内緑とふれあう会/村上公彦/森わか子/谷津都萌子/柳井一朗/山内康司/山本千佳/吉田幸子/吉田俊朗/吉見仁志/吉村周平/渡辺治彦/渡辺充江/渡邊瑠璃子

- 岡本朋子/金井英夫/菊池哲也/ギャラリーいろはに/菅原直樹/杉崎仁志/田中衣子/田中真理/谷/谷阪洋子/西村節子/島山ひろみ/畑中義雄/端無勝/船戸康夫/法花敏郎/松尾慶

治/宮田安希子

- フィリピン台風被災者支援寄付
福本幹雄

●集めるキャンペーン 乾聖陽

- 物品寄贈
高橋美也子/畑中義雄

第41回「土と水と緑の学校」に参加しませんか



毎年夏、和歌山県新宮市で行なっている自然学校。のべ参加者は約3000名。大自然の中で自然の持つ不思議さや大きな力を学ぶとともに、仲間と一緒に生活することで思いやりの心を育てます。 <旅行企画実施 関西教育旅行社>
日時：2024年8月5日(月)～9日(金) (4泊5日)
場所：和歌山県新宮市高田地区ほか

①参加者募集

対象：小学3年生～中学3年生 募集人数：60名(先着順)
参加費(予定)：大阪市発着…42,000円 新宮市発着…29,000円
保護者説明会：大阪市…7月7日(日) 新宮市…7月15日(月祝)
*詳しいプログラム内容などについては事務局・柿島までお問い合わせください。

②キャンプリーダー募集

自然学校の期間中、子どもたちの学びを助けるリーダーを募集します。
4月末から7月末まで10回ほど大阪と新宮にて事前研修を行います。
対象：リーダー…学生・社会人、ジュニアリーダー…高校生 募集人数：20名
参加費：無料(研修場所までの交通費の一部は自己負担)

③本部ボランティア募集

準備から、自然学校期間中の運営、後片付けまで、全体の運営をサポートくださるボランティアを募集します。
対象：18歳以上 募集人数：50名以上
参加費：JAFS会員・学生…1泊当たり500円
未会員…1泊当たり1,000円 ただし4泊以上の場合、4,000円が上限です。
(食費・宿泊費・温泉入浴代・ボランティア保険代を含みます)
*8月3日(土)～10日(土)のうち、ご参加可能の日時にお手伝いください。



国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ裏表紙にアドレス、連絡先

大阪マラソン今年も走りました



「アジア6カ国に井戸を贈ろう」

2月25日に開催された大阪マラソン2024に、JAFSが今年もチャリティ団体として、初出場した昨年に続いて参加しました。チャリティランナーを引き受けてくれた13人が雨の中、応援団の声を沿道から受け、元気に大阪の街を駆け抜けました。ランナーが集めてくれた寄付94万9001円は、アジア6カ国（インド、カンボジア、スリランカ、フィリピン、バングラデシュ、ネパール）に井戸を1基ずつ贈る資金に充てられます。

走ってくださったのは次のみなさんです（敬称略）。祝佳佑／岡野浩充／柿島裕／木田しのぶ／小林真里子／品川竜生／タパマガール・レジマ／中野慎也／バターライ・ルビ／船越果那／山崎大／ライビシユマ／渡辺治彦。レース後に次のような感想を寄せてくれました。

船越果那「『日本でたくさんのお恩恵を受けて生活しているので、誰かに恩返しをしたい』と言って昨年チャリティランナーを務めた勤め先の上司が、今年だけが参加を断念。その思いを受け止めて私もチャレンジしました」
小林真里子「42キロ走ってみたいなあと思いつながら、なかなか勇気が出ませんでした。走ることでチャリティになるなんて、そんなうれしいことはない、挑戦しました。完走できて、うれしさが倍増しています」
タパマガール・レジマ「日本にいてネパールのためにできるとチャレンジしました。沿道で声援とともに大阪の美味しいものが給食され、次は何が食べられるかなと楽しみで、気が付くとゴールしていました。大阪の人たちの人情が私をゴールさせてくれました」

岡野浩充「一般募集の抽選に漏れてしまい、まだ参加を受け付けていたチャリティランナーを探しました。趣旨がわかりやすく活動内容に共感してJAFSへ申し込みました。ほっとしました。現地へ着くまでの道のりは大変でした。関西と関東のJAFS会員ら11人が、車2台に炊き出しの荷物を積んで夜0時に大阪のJAFS事務所を出発し、朝5時半前に金沢に到着。調理用の水180リットルを補給し、6時ちょうどに穴水へ向かいました。車は、のと里山海道へ。しばらくは順調な走行でしたが、通行規制が行われているためにノロノロ運転が強いられるようになり、あちこちで警察による警備が行われていました。途中から国道249号線に入りました。各所に亀裂や陥没が見えました。道沿いには倒壊し亀裂が入った家屋が目に入り、緊張感が漂いました。それでも何とか予定より30分ほど早い9時10分に穴水町ブルートに到着できました。炊き出しを終えて帰るとき、ブルートの館長さんが「日々、笑顔で過ごすことを心掛けていますよ。今日は（被災者の）皆さんの笑顔がさらに増えました」と話してくれました。

現地の要望に沿いながら第2次、第3次チームと続けていきたいです。能登半島地震被災者支援募金への協力をお願いします！
（JAFSスタッフ 熱田典子）

フィリピン落語で新年会



JAFS新年会が1月23日、事務局から歩いて8分ほどの大阪市・西船場会館で開かれました。参加者25人が5つのテーブルに5人ずつかけ、歓談し

AFSに決めました。疲れましたが、チャリティ活動できてよかったです」
ランナーの言葉に、私たちも励まされました。元気な声援で送り出し、ゴールで迎えたのはもちろんですが、途中の四ツ橋通りから土佐堀通りに曲がったすぐの沿道では、JAFSの会員・理事・スタッフら約20人が集い、ランナーたちに声援を送りました。
（JAFSスタッフ 熱田典子）

能登半島地震被災者に カレーうどん炊き出し

2月10日、能登半島地震で被災した方々の避難所となっている石川県・穴水町さわやか交流館ブルートにお邪魔し、昼食にカレーうどん250食の炊き出しをしました。

「12時00分きっかりに配食開始したいです」と会場からの依頼。一方、私たちは大阪から夜通し車を飛ばし、やっと現地に着いたばかり。早速調理にかかりましたが、雨が降り出して手間取り、途中で12時の鐘が鳴ってしまい



リナ・オノダさんが日本語と英語を交えた漫談を披露。前ページの写真。途中からイスに正座して小話をしてくださいました。5人の子を持つ母親だそうです。とてもエネルギーがすごかったです。（生駒地区会会長 野池徹）

ました。

全員大急ぎでうどんをゆで、カレーをかけて容器にふたをし、避難所の130人にまず配りました。自宅でごさされている方々も、炊き出しがあると聞いて、列をなして待っていてくれました。休む間もなく、そちらへも配りました。裏表紙の写真。
被災した皆さんには「下水が復旧していないので、家でほとんど調理できないんですよ」「生鮮食品が手に入らないので、野菜や肉が食べられるのがうれしいです」と話してくれ、これまでの日常とかけ離れた生活を強いられることがわかりました。

カレーうどんは玉ねぎ、にんじん、しめじ、豚肉、うす揚げ、ネギと、新鮮な食材の具たくさん、カローリ満点にしました。写真。穴水町からのメールに栄養を考えた内容にしてほしいと

外国ルーツの子と 仲間の居場所 カラフルキッズ

外国にルーツのある子どもたちが仲間と一緒に違いを認め合いながら、ありのままの自分でいられてホッとできる。「カラフル・キッズ」はそんな場づくりをめざして大阪府松原市で2021年にスタートしました。昨年12月、初めての「カラフルフォーラム」を開催し、中学生たちが学んできたことやそれぞれの思いを発表し合いました。写真。彼らがまとめた「カラフルメッセージ」には、まっすぐ前を向いて歩もうとする子どもたちの成長と誇



カラフルキッズについて学校で紹介しました。

りが込められていました。
カラフル・キッズは松原市の国際交流キャンプを通して育った外国にルーツのある青年たち、熱い思いを持った学校の先生や保護者、地域の方たちに支えられながら歩みを進めてきまし



ウクライナ侵攻2年 平和祈り光の文字

2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻が始まって2年が経ちました。ウクライナの平和に祈りをささげるキャンドルナイト（関西ウクライナ友好協会など主催、JAFS協賛）が大阪市北区の梅田スカイビル1階広場でありました。

広場に大きくPEACEの文字がキャンドルで描かれました。写真。参加者たちが戦没者へ赤いカーネーションを献花し、18時に1分間の黙とうを捧げました。

「普通の日常が奪われて2年となりました。戦争が1日でも早く終わり、平和な日々が送れるようになることを強く願うとともに、皆さんにはウクライナのことを忘れないほしいです」。ウクライナ人を代表して話したたカトウ・カテリーナさんの言葉が胸に刺さりました。

この2週間前、ウクライナから避難

た。月1回の土曜日に、多様なルーツの小中学生が友達と一緒に集まります。そして、保護者やさまざまな方からの聞き取りやワークショップなどを通して学びます。
（松原地区世話人 谷岡康男）

して来た方々に今の状況について話を聞く集まりがありました。参加者の多くが女性と子どもでした。侵攻が始まった日に帰国予定だったハープ奏者のハリナ・ポストヴィットさんは、帰国できず京都で暮らしています。彼女が故郷を思いながら演奏する曲を、聞きながら涙する人がいました。息子さんが軍隊にいたので、心配



で心が張り裂けそうな毎日を過ごしているとのこと。将来は医者になりたいと勉強してきたが、これからの人生をどのように歩むことができるのかと悩んでいる高校生もいました。この侵攻で、さまざまな人たちの日常と人生が大きく変えられてしまっていることを、改めて感じました。
（JAFSスタッフ 熱田典子）

細雪の中、春の曲でチャリティー

第6回竹中真京都チャリティーピアノコンサートを3月9日、京都市中京区の日本基督教団京都教会で開催いたしました。なんと例年通りフィリピンとスリランカの子どもたちを支援できることを、大変うれしく思っています。
（京都地区会会長 辻 賢二）

らしい演奏を身近で楽しむことができました。2023年度に予定していた地区会行事を、これですべて終えることができました。なんとか例年通りフィリピンとスリランカの子どもたちを支援できることを、大変うれしく思っています。



「共に生きる世界」を めぐって Waku Waku

たいと思います。

（JAFSスタッフ 柿島裕）

「共に生きる世界」はもちろん、当会のテーマでもあります。JAFSのブースでは、ネパール人留学生が手伝い、第3回水写真コンテストはじめさまざまなイベントの紹介や、珍しいアジアの民芸品の販売もしました。写真。



今後も関西の国際協力団体と連携を深め、フェスティバルを盛り上げていき

アジアの歌と 踊りで旅気分

第8回アジアン・チャリティー・フェスティバルを2023年12月17日、大阪市天王寺区の大阪国際交流センターで開きました。コロナ禍が明けて初めての開催であり、会場で食事ができ、

いろいろな販売もできたので、参加したみなさんに一体感を持って楽しんでいただけました。舞台にはアジア各国からの多くの方が出演。外国に旅行しているような気分になりました。埼玉から応援に駆けつけた方は、中国の伝統芸能「変面」を披露して拍手喝采でした。留学生が参加する「けん玉大会」もありました。写真。舞台の外ではビンゴゲーム大会がありました。非常に盛り上がったので、今後も続けたいと思いました。舞台音響担当の方が、自分の誕生日で本来は休みなのに、わざわざ駆けつけて舞台を盛り上げてくれました。感謝しています。成功裡に開催できたのは、何度も話し合いを重ねた実行委員



の皆様のおかげです。実行委員長として参加できたことを光栄に思います。
（フェスティバル実行委員長 鳥居建十）

アジアの物品売り 市民との交流復活

兵庫県の西宮市国際交流協会主催の第28回西宮国際交流デーが2月3日にフレンテ西宮で開かれ、今年もJAFSとしてブースを出しました。写真。JAFSの活動や井戸寄贈のパネルを紹介するとともに、アジア雑貨と特定非営利活動法人アジア女性自立プロジェクトのアジア諸国の物品を販売しました。ネパールのヤクの毛の手織りシヨールが好評でした。コロナ禍以前の地区活動には戻れて

関西最大の国際協力関係団体のお祭り「ワンワールド・フェスティバル」が大阪市北区の梅田スカイビルを会場にして2月3・4両日に開かれました。1993年に始まってから今年で31回目となります。JAFSは主催団体として実行委員会に参加し、毎年ブース出展をしています。

今回のテーマは「共に生きる世界をくみんで Waku Waku」。対立と分断が深まる世界の中で、市民一人ひとりが何ができるかを考え行動する場になればとの思いを込めました。

いませんが、参加してくれた市民と交流できました。活動の展開を検討して

いきたいと思います。
(JAFS西宮世話人 平山隆史)

く、80代の2人のリーダーから元気をもらっています。
(JAFS北河内緑とふれあう会 代表・笠谷正博)

中の尾根づたいでは、一面の樹水を見ることができました。
山頂に近づくと一挙に人の気配と会話が耳に入ってきました。多くの人がこの雪を目当てに集まり、お祭りのようでもありました。金剛山の人気スポットの一つ、山頂展望箇所にあるライブカメラの画像が、ネット上にアップされます。時間を合わせて参加者全員で「ハイ、チーズ」。今年も記録を刻めました。
昼食に鍋料理をいただきました。気温0度でも暖まりました。おいしかったです。周りのにぎわいを見て、すぐ先の春の訪れ、コロナの次を感じられました。

田畑耕し緑とふれあい14年

「おはようございます」。農園に元気な声が飛び交います。写真。月2回、土曜日の午前が作業日です。2月の寒空の中も枚方・寝屋川両地区の会員を中心に、四条畷市や八尾市から仲間が参加します。地域の緑化と、こどもたちに土や水にふれあう場づくりを目的に活動を始めて14年になります。これまで農園でアジサイをさし芽から育苗し、約700本を枚方市の御殿山神社などに植林しました。農園に隣接する農家から田んぼを借り受け、田植えや稲刈りを親子に体験してもらいました。

ここ数年はコロナ禍や設立当時のスタッフの高齢化もあり、季節の野菜づくりがメインでした。この冬もたくさんダイコンやカブが収穫できました。他にタマネギ、ジャガイモ、サツマイモ、ソラマメ、トマトなどを、季節にあわせて堆肥、無農薬で栽培しています。秋から冬の目玉は園内のミカンで、収穫し販売、収益はネパールの農村振興支援に役立っています。作業でひと汗かいた後は、参加者全員で楽しいお茶タイムです。順に近況報告をします。最近健康の話題が多

JAFS富田林地区の代表的な恒例行事、冬の金剛山登山をしました。写真。暖冬の雪不足を心配してましたが、幸いにも前夜から雪が降ってくれて駐車場にも積もり、登山口から雪山を楽しめました。今年には人通りの少ない林道ルートを選びました。早朝の静寂の中、新雪を踏み分ける音と自身の息遣いだけが聞こえます。まさに雪中登山を満喫。途

鍋料理も満喫 新雪の金剛山



本欄では、国内各地のJAFS会員の皆さんの活動ぶりを紹介しています。誰が、いつ、どこで、どのような趣旨で、どんなことをしたか、などをかみくだいて分かりやすく書き、筆者名を添えて、「JAFSプラザ」に掲載希望」と明記し、メール、郵便、ファクスなどで事務局へお送りください。写真付きを歓迎します。原稿をさらに推敲・編集したうえで掲載させていただきます。

● 投稿規定 ●

本欄では、国内各地のJAFS会員の皆さんの活動ぶりを紹介しています。誰が、いつ、どこで、どのような趣旨で、どんなことをしたか、などをかみくだいて分かりやすく書き、筆者名を添えて、「JAFSプラザ」に掲載希望」と明記し、メール、郵便、ファクスなどで事務局へお送りください。写真付きを歓迎します。原稿をさらに推敲・編集したうえで掲載させていただきます。



マレーシア北部ペナン島の南西岸にある漁村。2月のスタディツアー時に訪れました。ツアー前半に首都ク

アランプールやペナン島東部の市街地で発展が進む一面を見ていたので、田舎の農漁村で発展前に近い様子も体験しようと島西部を訪れました。

ペナン島は、マレーシア本土であるマレー半島の西側にあります。島の西側はマラッカ海峡を隔ててインドネシアのスマトラ島です。島西部には水田や漁村が残り、島東部と異なり観光客があまり行く所ではありませんが、地域の人には、サイクリングを楽しんだり、牧場で動物と触れ合ったり、海岸でくつろいだりと、自然の中で過ごす場所として親しまれています。現地の方の案内で、漁村の一つに連れて行ってもらいました。

裸足で海に入ることも想像していたのですが…。昨年9月のバリ島スタディツアーで見た海よりも、これまでブルーオーシャン作戦ビーチクリーンを行ってきたインドネシアやフィリピン各地の海よりも、はるかに「汚い」。不快な気持ちになりましたが、これが現実なんだと思知らされま

環境コラム

ペナン島の漁村

した。ペナン島でも行楽用ビーチは、観光案内で見るときれいに思えます。バリ島でも、観光ビーチでは清掃に取り組まれていました。ペナン島の此処は地元漁民しか入らないような浜です。JAFS提携団体のように意識を持ってクリーン活動をしたり、また外の目にさらされたりしなければ、各国各地に未だまだポイ捨てされ放ったらかしの場所が多いのだろうと改めて思いました。

マラッカ海峡の海流は南東から北西へ向かうので、島南西のこの浜には、海流に乗り遠方や他国からプラごみが漂着している可能性もあります。地球上すべての場所で取り組む必要があります。

マレーシアでは2015年にごみ分別制度が始まったものの、住民に分別が浸透しているとは言えないようですが、政府は2030年までの使い捨てプラ100%廃止を目標としており、今回のツアー中、レジ袋を渡されたことも要不要を尋ねられたこともなく、至極当然にマイバッグに入れる流れでした。訪問したマレーシア科学大学でもSDGsに取り組む学生グループがありました。提携団体AFSペナンのメンバーが属する教会にはリサイクル回収拠点がありました。ペナン州は環境意識が高い人が多くリサイクル率も高い方ですが、それでもこの漁村の様でした。各地で意識の底上げが必要です。(JAFSスタッフ 川本 裕子)

社員総会・報告会・懇親会ご案内

開催日：2024年6月8日(土)
内容：14:00～社員総会/16:00～海外プロジェクト報告会/17:15～懇親会(有料)
会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター/天満橋駅より徒歩5分) ※報告会と懇親会はどなたでも参加いただけます。事務局まで。

編集後記

やっと、春が来ました。今年はお暖かい支援が必要ですが、自分にしてほしいことを、皆にしてあげよう、今年はこの心で頑張りましょう。皆が少しでも幸せになるように。(金)

素直で明るい大学生とのスタディツアーで私自身も楽しい時を過ごしました。また人の成長をそばで見るとは楽しいなと久しぶりに思わせてもらいました。次回ツアーも実現するよう参加希望をお待ちしております。(川)

水 仙が枯れ、菜の花が咲きました。淡路島は春です。毎年この季節になると、淡路島を描いた先輩の簡潔な前文を思い出します。春の大潮は直径二十メートル。今年も多くの見学者でにぎわっていることでしょう。(敏)

故郷でホスピスを営む親友の医師が冊子でコロナ禍を回顧。病者に近づくべき看護、介護が防護服の「遠ざかる」に転落したと嘆いた。心に残る後ろめたさをバネに「近づく」を再びめざすとも。75歳の志に拍手。(督)

二つの国での戦争と能登の地震。毎日これらの報道がニュース番組の多くの時間を占める。最近はその自民党の裏金関連のニュースが加わった。幸せな気持ちになるようなニュースがいっぱいの日は来るのか?(和)

A. 維持会費	年額1口	12,000円 (月額1,000円)	会員となって継続的に支援くださることで、安定した活動計画ができます。ご協力を願います。
B. 賛助会費	年額1口	6,000円 (月額600円=振込手数料含む)	
C. ジュニア会費 (高校生まで)	年額1口	1,000円	
D. 団体会費	年額1口	20,000円	
E. 法人賛助会費	年額1口	50,000円	

会費・寄付の振り込み先

三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011 または 楽天銀行リズム支店(209) 普通7006892 【口座名】シャ)アジア協会アジア友の会



▲能登半島地震で被災した人たちの避難所を訪れ、カレーうどんの炊き出しをしました。2月10日、石川県・穴水町さわやか交流館プール。23ページに報告記事

▲表紙の写真 JAFSのクラウドファンディングで集まった資金で、ラオスの山村のナインフェン中学校に新しい寮が完成。民族衣装の晴れ着姿で祝う生徒たち。2月9日、ポンサリー県ブンヌア郡。4〜6ページに特集記事



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人々を支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会
(JAFS)

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階
☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp
URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2024年4月 157号 発行人：篠原勝弘 編集人：熱田典子
広報企画委員長：法花敏郎
編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善
編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、金井英夫
川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



Accountability Self-Check 2023



HPもご覧ください